

北 河 内 会 報

自 然 愛 好 会

2017年12月20日 №.101
北河内自然愛好会発行
事務局：大東市野崎 3-7-7
西畑敬一 方

ホームページアドレス：<http://www.cc-net.or.jp/~ja3aeh/3shizen/3-3kitakawati.htm>

第 388 回例会「甲山の自然（秋）・甲山森林公園」西宮市

2017年9月23日（土）

稲原良三・ヒサエ

9月23日（土）8名、阪神西宮の北バス乗場に9:10に集合し、駅のある浜辺地域から市北部の山地甲山までバスで「西宮市街地」、「丘陵住宅街」、「のどかな風景の田園地」の景色を楽しみながら「北山貯水池」で下車。公園駐車場のスペースで挨拶をしあって自然観察池へ向かう。

出発地点で木全体が茶色く枯れた大きなコナラの木に出会い、「ナラ枯れ」について説明を受ける。この「ナラ枯れ」は甲山（お椀を伏したような山の形状）の麓から山頂にかけて水玉のように所々に枯葉をつけた茶色樹が深緑の木々に混じって散在していて、遠目からは黄葉の様にも見える。しかしやがて葉は落ち、枝や幹が朽ちて危険だけでなく、枯れる原因となる「カシノナガキクイムシ+ナラ菌」の拡散が「ナラ枯れ」を拡大していくそうです。

<コースの概要>

この午前のコースは昨年11月に第380回例会観察したことがあり、甲山を右回りで麓を半周します。最初に自然観察池で湿地の植物を中心に観察し、わずかに上り、下りがあるがほぼ水平移動しながら自然学習館（昼食）まで約2時間かけて林間植物、甲山湿原の湿性植物を観察できました。

午後のコースは道路を挟んで南側の森林公園内の散策でした。シンボルゾーンの噴水2カ所、彫刻の道、展望台、みくるま池、南入口のバス停まで約1.5時間（休憩含む）でした。

<観察で印象に残った植物>

- 自然観察池周辺：メドハギ、ホタルイ、ヤマイ、コイヌノハナヒゲ、コウガイゼキショウ、ムラサキシキブ、アメリカセンダングサ、リョウブ、ヌルデ、イヌザンショウ、
- 甲山湿原観察園：キセルアザミ、サワシロギク、サワギキョウ、ノギラン、ワレモコウ、
- 林間路：ナツツバキ、ヤブムラサキ、ミヤマガマズミ、ウラジロ、テングダケ、モッコク、ヤツデ、コアジサイ、ソヨゴ、コウヤボウキ、ハタケシメジ、アキノタムラソウ（紫花）、ヨシノアザミ（花）、ヨメナ、ノコンギク、ミズヒキ、ヒヨドリバナ、ニガクサ、ハナタデ、アブラガヤ、オカトラノオ、ハナビラタケ、タニウツギ、イタドリ、アセビ（花）、ウリカエデ、オオイタドリ、コツクバネ、サジガンクビソウ、メリケンカルカヤ、アオツツラフジ、ヤブタバコ、マルバハギ、クロモジ、ニセアカシア、チゴザサ、チジミザサ、アレチヌスビトハギ、ナツハゼ、オケラ、アクシバ、ウスノミ、タラノキ、
- 森林公園：ゲンノショウコウ、サンゴジュ、センニンソウ、ツルグミ、ヤマモモ、イヌコウジュ、キレハマグワ、カスミザクラ、セイヨウバクチノキ、カクレミノ、ヤマボウシ、ヤマナラシ、イソノキ、コバノガマズミ、アベリア、ツクシハギ、マルバハギ、アオハダ、クサギ（花実）、ホルトノキ、オニドコロ、カエデドコロ、

<説明で印象に残ったこと>

- ヤブムラサキとムラサキシキブの実の付き方：葉の上に実＝ムラサキシキブ、葉の下に実＝ヤブムラサキ
- コウヤボウキの本年枝と前年枝の葉の付き方の違い：本年枝は葉の間隔が広く互生が明瞭、前年枝は

節ごとに葉が増えて束生し、本年枝の先端に淡紫色の頭花を一つずつ付ける。

○アレチヌスビトハギの受粉の仕組み：薄紫の小さい花の中央に面白い仕組みがあって、鉛筆の芯先で押して見るとにわかには戸が開いておしべとめしべが飛び出す仕組みです。花卉中央に刺激を与える虫などに受粉をしてもらうための仕組みだそうです。

この植物は引っ付き虫（三角形 3~5 個の節果）としてよく知られ、嫌われ者ですがズボンや靴下について困った経験を皆さんお持ちだと思います。「洗濯してもブラッシングでもとれないね」の声に、会員の安藤さんが簡単な取り方を実演、教えてくださいました。それはテレホンカードで一撫で！きれいにとれました。

○チゴザサとチジミザサの違い：現物で違いを観察できました。葉の縁がちぢれているのがチジミザサ、花序がなくともすぐに解るのでですね。

○センチュウの知恵の輪遊び：帰路につくバス停の近くで長島さんが 30cm 程のセンチュウを見つけられ、西畑さんが解説してくださいました。カマキリやバッタのお腹の中に寄生する虫でハリガネムシと呼ばれるそうです。まさに針金のような 1mm 程の太さですがよく見ると動いています。

西畑さんがヒョイと拾い上げ四つ折りにしてチョウチョウ結びをして地面に置かれると、少しじっとしていましたが、まもなく全体がぐねぐねと動き出すと、わずかずつですが知恵の輪をほどくがごとく結び目からスルー！スルー！とほどけていくでは有りませんか。まさかほどけるとは思いも寄らない結び目でしたが 5 分くらいの間に一本の線に元通り、見事な動きと早さに参加者は拍手した次第です。この遊びは子供の頃に良くしたものだそうです。

○蟬の鳴き時の移り変わり：ツクツクボウシは夏の終わりに鳴く蟬ですが、最後に鳴くのはチッチゼミだそうです。最初に鳴くのはニイニイゼミ、次にはアブラゼミ、クマゼミ、ヒグラシ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシの順番で鳴くそうです。

沢山学ぶことができて、大変楽しい観察会でした。南入口のバス停で解散し、バスで帰路につきました。有り難うございました。

§§甲山観察会で見た植物と感想（長島照文）

カモノハシ・マツカサススキ・コイヌノヒゲ・コウガイゼキショウ・ヤマイ・ナツツバキ・ナツハゼ・カゼクサ・ミヤマガマズミ・コアジサイ・ヒメユズリハ・ナキリスゲ・ヨシノアザミ・ニガクサ・ハナタデ・アブラガヤ・サジガクビソウ・サワヒヨドリ・サワシロギク・サワギキョウ・キセルアザミ・ワレモコウ・キキョウ・シラヤマギク・ノギラン・ヤブツバキ・チゴザサ・チジミザサ・シロイヌノヒゲ・キレハマグワ・カエデドコロ・コウヤボウキ・オケラ・カエンタケ・センチュウ

○湿生植物がナマで見られて良かったです。展望台も疲れを癒しながらのんびりとパノラマの風景を楽しみました。ありがとうございました。

◎参加者：安藤香子、稲原良三、稲原ヒサエ、桑原秀晃、桑原由芽、長島照文、西畑敬一、発ひとみ（以上 8 名）

第 389 回例会「秋の神於山（こうのやま）」岸和田市 2017 年 10 月 15 日（日） 田中光彦

四条畷駅発の時も集合時間の東岸和田駅の時も、雨や兎は降っていませんでした。しかし、参加者は集合場所にはゼロ。結果としては雨の為中止となるのでしょうか。それにもめげずに 目的地に行くバスに乗ると、中で岸和田駅から乗った参加者に出会いました。2 名です。田中光彦計 3 名で今日の観察会を始めましたが、他の 2 名は地元の人で神於山をよく知っているの、コースを適当に変更してゆっくり私のペースに合わせて歩きました。そんなわけで当日の詳しい観察情報は省略します。昼食を国見の森広場の休憩所（屋根の下）で摂っていると雨が降り出しました。後は大降

りではないが本格的な雨が帰るまで続きました。昼食前に行った藤尾池では、地元の人がかつて見たことがないほど水量が減っているということでした。その水が引いて現れた減水裸地でカヤツリグサ科の1種を見つけ、帰宅後調べてみると、シロガヤツリだとわかりました。近畿地方レッドデータブック(RDB)によればAランク、大阪府レッドリストでは情報不足となっています。それだけ見る機会の少ない植物です。地域にもよりますが、池の水が干上がった部分にその時だけ姿を現し、急成長する植物の一つです。久しぶりにこんなものに出会ったのはラッキーでした。その他、イラクサ科のヤナギイチゴが見られるとは思いませんでした。あの甘い実も食べられたらよかったです。まだ幼木でした。後は帰路に栗拾い(中栗)が楽しめて、3人で山分けしたことです。4時過ぎには帰宅できました。◎参加者：田中光彦、中野潤子、川崎節子(以上3名)

第390回例会「植物・ムシ・鳥の冬備え」交野市私市・大阪市立大学附属植物園

2017年11月25日(日) 平 研

11月25日、私市植物園観察会、9名が参加して、これから冬を生き抜こうと準備している樹木、野草、ムシたちを観察しました。出発前に「落葉、紅葉するのはなんでやねん」

1. 落葉、紅葉、黄葉は冬を生き延びるための素晴らしい知恵と工夫であること、そのメカニズムを頭に、この森を植物園の樹木を見てみよう。
2. ムシたちの冬を生き延びる生き方を見てみよう。

と、配付資料の解説を念頭に歩き、西畑会長の説明に驚きの声をあげながら、楽しく、知的にも満たされた観察会でした。

樹皮の裂け目の中で越冬中の虫たちの様子に皆、冬を生きるその姿に感嘆の声をあげました。素晴らしい銀杏の黄葉に、緑の色素と黄の色素と日光との絡み合いのメカニズムに思いをはせて納得し合いました。

◎参加者：岩井幸恵、稲原良三、北野 謙、桑原秀晃、鈴木永子、平 研、高見君江、中町芥子、西尾フミ子、西畑敬一、波多野恵子、濱田純一、福間幹也(以上13名)

《会員交流コーナー》*****

§§<田原の天野川の魚>家内のリバビリ待ちの間、磐船街道を走り、磐船神社駐車場から下を流れる天野川を覗いていて、泳いでいるオイカワの群れ(添付)を見つけてビックリ。ここは鮎返しの滝で、魚の行き来が下流の交野側とは遮断されています。するとこのオイカワは鮎返しの滝ができて数十万年以上、田原の天野川で世代交代を繰り返して生きてきたこととなります。他にも田原の天野川には、ここの狭い盆地の細い流れの中で、人間が住み着く遙か昔から、ここだけで世代交代を繰り返して逞しく生き続けているいきものが多くいるはずです。凄いことです。(8/4・平 研)

§§<ヒメシロチョウについて>先日、ヒメシロチョウを撮影したとメールしましたが、このチョウは関西では確認されていないとのことで、大阪市自然史博物館に画像を添付して問い合わせました。その返事が今日来ました。モンシロチョウだとのことです。モンシロチョウには個体差があって、ヒメシロチョウと間違われるものがたまにいるとのことでした。なお、モンシロチョウだとの指摘は徳永さんからもいただけていました。お騒がせしました。(8/5・平)

§§<こんなことがありました>ヒメシロチョウの一件について、知り合いのプロの昆虫写真家の伊藤さんにメールしたら、下記の返事がありました。自然現象が生きものに及ぼす影響なども、この一件でいろいろな勉強ができました。

平さま

そうですね、こんな暑い夏に時々出てきます。キャベツなど食草が豊富にあるときでも、暑さで枯れた場合、終齢に脱皮した直後に餌切れが起こった場合、すぐに蛹になり小さな親が羽化してきます。良くあることで、今年は2件ヒメシロチョウに間違われたのを聞いています。本日は、ふくおと歩くでキモウアナバチが、クダマキモドキを捕まえて巣穴へ運ぶ様子をじっくりと観察しました。暑かったです。情報ありがとうございました。(8/6・平)

§§<会報100号>連絡が遅くなりましたが、3日前には会報が届きました。ありがとうございました。きりの良い100号発行はお見事なことと感心しています。1985年5月第1回から始まって2017年7月第387回発行までの例会担当者、参加者、関係者、感想文・原稿作成者、収集事務、文章入力割り付け・構成・編集、印刷、発送の各業務。拾い上げればキリの無い、汗と涙の労力とこのことに関わった方々の純真な自然に対する愛と喜びを感じざるを得ません。100という数字を見て“すごいな”の私なりの意味づけです。(8/30・稲原良三)

§§<クスベニヒラタカスミカメ>私市駅前のクスの木がクスベニヒラタカスミカメというカメムシにやられて無残な状態だとのことで、植物園の大楠にも被害が?と心配されて植松先生から調査を頼まれて行ってきました。大楠は無事でしたが、事務所裏のクスの木2本の新梢がやられていました。(添付)液を吸はれた葉は斑点だらけになって落葉しています(添付)。植物園でもやがて広がるでしょう。気になります。このカメムシは最近の外来種で今、近畿一円に広がっているようです(添付、ネットから)。(9/6・平)

§§<Re:クスベニヒラタカスミカメ>クスベニヒラタカスミカメムシは、2年前大阪城調査で成虫を見つけてから意識的にクスノキを見ているのですが、これまで調査した大阪市内の公園や社寺などでは、被害で多くが黄色く変色しています。(9/6・北川ちえこ)

§§<犬も歩けば>朝6時過ぎ、妙見さん横の道路で踏みそうになった草むらに何やら小さな黒いもの、屈んでみたら、ツクツクボウシが2匹草陰に止まっていました。顔を近づけても逃げようとしません。眠っているようです。カメラを出して接写3枚、草をゆすってみたら、2匹とも飛び去りました。樹上でなく、道の草むらを一夜の宿とは、天敵の鳥対策なのでしょうか(添付)。バス道の柵には、小さな綿のようなものが着いていたので、顔を近づけたら動き出しました。肢がありました。ムシでした。ワタムシでした(添付)。これが秋の終わりごろに飛べばユキムシになるのです。(9/6・平)

§§<ワタムシ訂正→オオホシハゴロモ幼虫>先日、ワタムシとして画像を送りましたが、フェイスブック(FB)に出したら、FB友達の交野出身のプロの昆虫写真家の尾菌さんから、オオホシハゴロモの幼虫ではないかとコメントがありました。ネットで調べたら、確かにそのほうがよく似ています。すみません。オオホシハゴロモ幼虫と訂正してください。(9/11・平)

§§<芙蓉の花>私市植物園で、その花の色に魅せられてカメラを向けた芙蓉の花、よく見たら花は横を向いて、突き出たメシベは折れ曲がって上を向いていました。この花、何を考えているのでしょうか。しばらくその場で考えこみました。(9/13・平)

§§<教えて>昨日、京都梅小路公園いのちの森の調査をしてきました。オギノツメらしい花が咲いていましたが、雨が降っていて分かりにくく、葉もはっきり覚えていないので自信がありません。写真を撮りましたが、これもピンボケですが葉で分からないかなあと期待しています。分かる方、よろしく願い致します。(9/18・北川)

§§<回答>お尋ねの植物は、オギノツメでいいと思います。(9/18・西畑)

§§<回答お礼>西畑さん、ありがとうございました。オギノツメは昨年と同じ場所から出ていました。当時、草刈りがあり、跡形も無くなっていたので残念に思っていたのですが、種ができていたのですね。ありがとうございました。

§§<見てやってください>念願の阿修羅、やっと彫れました。1か月程かかりました。若い時からこの阿修羅に憧れて、何回も興福寺を訪れました。人間の世の未来を見通す憂いを含んだ眼差し、それを写し取りたいのだが…。(10/2・平)

§§<Re:見てやってください>労作の阿修羅像、躍動感があって素晴らしいですね。お顔を見ていると引き込まれそうな感じがします。いつか、実物を見せてください。(10/6・西畑)

§§<星田の田んぼ>毎年この時期、星田の田んぼの招きに応じて出かけました。

1. 豊作の稲は、頭を垂れて刈り入れを待っていました。うれしい景色です。
2. 絶滅危惧種になりかけているサクラタデは可憐な花を3株だけ頑張っていました。淋しい景色です。
3. ミゾソバはまだ溝を飾っていました。和みます。
4. 肝心のノビタキは老いの目には入ってきませんでした。鳥はアオサギ1羽だけでした。侘しいです。(10/8・平)

§§<センチコガネ>南星台のまちづくり委員会の自然観察グループの活動日、山中に設けたカブトの飼育箱にセンチコガネ(糞虫—クソコガネ)がいました(添付)。ファーブルの昆虫記に出てくるフンコロガシの仲間、仲間は緑色、紫色、虹色など美しい輝きを持っています。このセンチコガネは黒く輝いて存在感を見せています。動物の糞やキノコも食べ、ウサギやタヌキの溜め糞の下でよく見られます。卵はその糞に産み付けて、幼虫は糞を食べて育ちます。(10/10・平)

§§<イソウロウグモ(居候蜘蛛)>ジョロウグモの巣の隅に、小さな白く光る仁丹のようなクモ(添付)が見られるようになりました。自分では巣を張らず、ジョロウグモが放置している小さな獲物を頂戴して生きているクモです。ジョロウグモに相手にされないように体を小さくして、その網の隅で一生を生きて、小さく世代交代を繰り返しています。または、ジョロウグモと協定して、小さな獲物を片付けて網を掃除することで居候させてもらうことで共生しているのかも?小さいムシたちの生きる知恵、素晴らしいです。(10/13・平)

§§<餌台が寂しい>この夏から秋にかけて、庭の餌台に常連のスズメ、ヤマガラ、メジロ、ヒヨドリなどが姿を見せず、時折キジバトが姿を見せるだけとなっています。庭が寂しいです。どうしたことでしょうか。(11/4・平)

§§<撮りそこなったのですが…カレハチョウ?>皆さま、いつもお世話になっています。昨日のことです。ベランダに吊るしている干し柿の鳥よけネットの中に、蝶が迷い込んでいるのを発見しました。逃がしてやろうとしたところ、あまり見慣れない蝶だったので、写真を撮ってから…と捕まえました。カレハチョウ?実物を目にしたことはないのですが、どこかで名前を聞いたことはあり、後で調べようと少し観察。その後、右手にカメラ、左手に蝶、自分の指で肝心の羽の模様が隠れてしまっていたので、持ち替えようとすこし力を抜いた瞬間に逃げられてしまいました。蝶にしてみれば必死だったのでしょね。羽は地味な枯葉色、見るからに枯葉のようで、羽を広げた様子も後にネットで調べた写真の姿そのもののように、私には思えました。(添付の写真はネット検索で出てきたもので私の撮った写真ではありません)似たような蝶は他にもいるのでしょうか?それと、こんなところ(我が家は門真市の北東部の住宅街です)に現れることはありうるのでしょうか?どなたか教えて下さい。証拠写真がないのが悔やまれてなりません。(11/7・鈴木永子)

§§<カレハチョウ?—回答>お尋ねのチョウはコノハチョウです。元々南方のチョウですが近年、温暖化の影響で大阪でも見られる様になっています。(11/7・西畑)

§§<回答お礼>早速のお返事をありがとうございました。カレハチョウではなくコノハチョウが正しい名前なのですね。温暖化の影響で、大阪でも見られるとのこと驚きでした。(11/8・鈴木)

§§<教えてください>先月、京都「いのちの森」で見た植物です。雨が降っていてうまく撮れませんでした

した。明日行きますが、明日も雨とか…。名前分かりましたら教えて下さい。(11/17・北川)

§§<一水会画展>今日、天王寺美術館の一水会画展を見に行きました。目的は岡田三千代さんの出展画です。出展 269 点、それも総てがハイレベルの 100 号に余る大画面ばかり。岡田さんの出展は「朝の操車場」と題した、まだ活動していない晩秋の朝の操車場の風景、手前に描かれた針金でくくった太い枕木 2 本の描写が凄く画面を引き立てており、線路に敷き詰めたバラスの石ころ一つ一つも鮮明に個性を持たせて描かれて、わずかに残っている枯草が晩秋の雰囲気を醸していて、その見事な絵から離れられませんでした。(11/23・平)

◎会員異動について(敬称略)

退会：上田豪(10/30・寝屋川市) 柿本春代(10/30・東大阪市)

◎編集後記：8/30 付稲原さんの ML に寄せていただいている通りですが、会報 100 号達成はほんとうに素晴らしいことと思います。加えて、来年度 11 月観察会予定で何と例会 400 回を迎えます。北河内自然愛好会の足跡が営々と刻まれ、このような金字塔が築かれて行くのですね。会員の皆様方共々と記念の例会を迎えたいと思います。いつものことですが、編集や投稿に関して、お気軽にご意見などお寄せ下さい。(太田)

寝屋川市自然を学ぶ会・山田晃さんからのお知らせ：寝屋川市総合センターで恒例の環境展示開催 2018.2.1～7。北河内自然愛好会の皆さんも出展や観賞をお願いします。問合せは山田さんまで

【諸連絡の窓口】 ◇会の代表者・会長：西畑敬一 072-876-8114

◇会費の納入・会計に関して：稲原良三 072-892-8507

◇会報の投稿・編集に関して：太田理 0743-79-9665 会員交流コーナーなども太田宛メールか郵送で送ってください。 ma36ux75ml@kcn.jp 〒575-0013 四條畷市田原台 7-5-2

北河内自然愛好会 年会費 1000 円 郵便振替 00970-4-103735

目 次

第 388 回例会「甲山の自然(秋)・甲山森林公園」稲原良三、ヒサエ-----1

「甲山観察会の見た植物と感想」長島照文-----2

第 389 回例会「秋の神於山(こうのやま)」-----2

第 390 回例会「植物・ムシ・鳥の冬備え」平-----3

会員交流コーナー-----3

会員異動、編集後記-----6

カラーグラビア版-----別刷

例会案内-----別刷



岡田雅彦氏画「センリョウ」